

## 2020年度 第6回 理事懇談会 抄録

日時： 2021年1月9日（土） 16：40～17：30  
場所： WEB会議  
出席： 理事： 半田、内山、斉藤、森本  
          網本、大淵、小川、梶村、清宮、黒澤、佐々木、白石、大工谷、高橋（哲）、  
          高橋（仁）、田中、谷口、友清、中川、藤澤、松井、山根、吉井  
          監事： 太田、長澤、辺士名  
欠席者 理事： なし  
          監事： なし

### I. 協議事項

（全2題）

#### 1. 第57回日本理学療法学会学術研修大会 in 富山 企画・予算案について （斉藤副会長、酒井大会長）

第57回日本理学療法学会学術研修大会 in 富山 企画・予算案について協議された。

なお、提示されたプログラム案については、以下の2案について協議を行った。

- 1案は、脳卒中や運動器が各2コース等、比較的多くの会員が携わる疾患をメインに構成。
- 2案は、公衆衛生・予防医学、訪問リハ、ウィメンズヘルス等のより広い分野を対象に構成。

#### 【概要】

- 大会テーマ：「臨床技能の伝承～プロフェッショナルとしての臨床技能の追求～」
- 大会日程：2022年7月9日（土）～10日（日）
- 会場（対面）参加とWEB参加を設けたハイブリット開催とする。
- 会場（対面）は、実技研修のみに特化し座学研修は行なわない。
  - 実技研修は12プログラムを用意する。
  - 1プログラムのみ申込とし、1プログラム（180分×3コマ [2日間]）とする。
- 共通（1本）＋各実技研修（12本）の合計13本のeラーニングを制作する。
  - 会場（対面）参加者へは、事前学習として視聴した上での参加を推奨する。  
共通（1本）＋申込した実技研修（1本）のみ視聴可能である。
  - WEB参加者へは、同動画を視聴することで大会参加とする。13本個別に申込可能である。

#### 【主な意見】

- ・参加費の1プログラムの単位は2日間にまたぐ受講となるのか。
  - その通り。会場参加の方は1プログラムしか選べないとする。eラーニングの会員参加費（千円）はあくまで事前参加の内容だけで、当日の実技・症例検討は視聴できないことから設定した。なお、会場参加の場合も事前学習はどれでも視聴できる。
- ・感染症対策について学ぶ機会を設けていただくとよいのではないかと。
  - 検討段階だが、公衆衛生・予防医学という項目を考えている。また、いろんな領域の話を知りたい、一方で専門技術も学びたいということで、全会員に聞いてほしい基本的なものはオンデマンドでもよいのではないかと考えている。
- ・プログラム第2案について、メジャーではない領域を9時間の帯で設定するのは難しいのではないかと。

か。当日参加の方も途中で帯をチェンジできるようにしてはどうか。

→管理上、難しい。ガイドラインに沿って漏れる部分が出てくるが、それをオンデマンドでフォローするのもよいかもしれない。

- ・臨床技能の伝承のコンセプトについて、伝承と追求が並び立つのか。

→伝承だけでなく、追求も行う。

- ・1) 基本水準の急性期、2) 高質水準の、1) 2) のすみわけがわかりにくい。

→高質水準は技術職として、エビデンスをもって治療にあたる専門技能はまさに高質水準でなければならないので、疾病・障害別と考えている。一方、病期別の基本水準については、若い方を中心に、就職する職場では様々な疾患にそれぞれ対応しなければいけないので、理学療法士として最低限できないといけないことを基本水準と考えている。

- ・開始時間が遅いのではないか。

→地域性として2日間開催で、当日泊だけで済ませたいという意見があり、11:30 スタートなら問題ないということで設定している。

- ・新型コロナの現状を見ると、3月の時点で承認して進めてよいか。赤字の補填は協会が行うと思うが、キャンセルポリシーや大枠を決定する時期などのプロトコルを協会が設けて3月の理事会に提出したほうがよい。

→検討する。

- ・動画やデモンストレーションの収録をして、オンデマンドに少し入れてはどうか。現地に行って2日間100人規模の帯で並んでいる研修の内容が参加者や講師に伝わって富山に行くという気持ちになるか。一方、講師にとっては要求水準の高い企画になっている。研修会の3か月前までに企画を出すという話になると思うので、講師との詳細なイメージづくり・ネゴシエーションが大事ではないかと思う。

→予算の中に反映している講師、1コース3名+助手で予算を考えている。120名の実技は難しいと思うが、当日に来ていただいて技能的なものを実践する、ガイドラインを活用してみるというのは、現場に来て同じ時間を過ごしていただきたい。対面でできるものを企画したい。

## 2. 日本理学療法学術研修大会の役割と今後について

(齊藤副会長)

2023年度で日本理学療法学術研修大会にリニューアルして5年経過することをうけて、役割と今後について協議された。

### 【主な意見】

- ・協会組織の改定も進めているので、都道府県士会との役割・機能分担に学術も含めて整理する必要があるだろう。

→担当としては、ブロック、士会の会員の皆さんに活かしてもらえるような、研修事業につないでいけるようなモデルができればいいと思っている。所掌外では現場の会員が使えるエビデンスを出して活用いただけるプラットフォームを作れるとよい。

- ・分科学会については、理事会で法人化にあたって3つの視点を大枠で示し、あとは自分たちで学究を深めていき、研修会・学術について協会と一緒にやっていくという示し方が理解しやすいと思った。
- ・大会の名称について、第2案(日本理学療法臨床技能研修大会)が意味的には良いが長すぎるので、第4案(日本臨床理学療法研修大会)がよいのではないかと。

以上